



「大きくなったらYouTubeになる！」

おばあちゃんにそう宣言している男の子を見かけました。時代は変わりました。聞いたこともない職業が、いつのまにか世の中の最先端にあると感じるこの頃です。

きつこの少年が憧れているのは、大人気YouTuber「アバンティーズ」。そのメンバーの一人であるエイジさんの訃報が、お正月のTwitterに溢れていました。

所属事務所の発表によれば、1月1日、休暇で訪れたスイパで高波にさらわれて死亡。22歳でした。救出後、懸命な救命措置が行われたものの搬送先の病院で息を引き取ったとのこと。その場に一緒にいたYouTube

88 ユーチューバー エイジ

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」は「痛くない死に方」は「いづれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

uberの友人は「目の前で沈んでいるえいちゃんを、自分の力では水の外に出してあげられませんか」と悲痛なコメントを発表しています。目の前で友をなくすことが、どれほど辛いことか。でも決して自分を責めないでほしいです。

水難事故に遭った人を助けることはその道のプロでもなかなか難しいものです。私もこの原稿を書きながら、



溺れて亡くなった何人かの知人の顔を思い出しています。どの人も泳ぎが下手な人ではありませんでした。むしろ得意な人のほうが水を怖がらない分、危険な目に遭いやすいのかもしれない。改めて、「溺れる」とはどういうことを説明しておきましょう。

映画などでは、溺れている人はバシバシと水で暴れるように描かれますが、実際はそうでない場合の方が多いです。息をするのが精いっぱいなので声が出ません。手を振り上げることも困難です。一緒に泳いでいても気づかないことがあるのはこのためです。

神経障害を引き起こし、かつ、意識が低下し、心肺停止に至ります。

警察庁の発表では、国内で海や川、湖での死者・行方不明者は年々減り続け、一昨年は654人となっています。しかし日本人が一番溺死している場所は、自宅の風呂です。年間4000人以上が風呂で水死しており、その多くが冬場の温度差による血圧の変化(ヒートショック)によるものです。人間は、水なしに生きていけません。水を恐れることも忘れてはなりません。

アバンティーズの4人は、幼稚園から中学校までずっと同級生で中学時代から動画を作っていたとか。そして彼らのキヤッチコピーは、「笑顔の発電所」だそう。

今回の原稿を書くにあたり、YouTubeという仕事の素晴らしさを理解しました。動画の中のエイジさんの笑顔は永遠です。

水難事故の恐ろしさ